

水戸芸術館音楽紙[ヴィーヴォ]

vivo

1&2

JANUARY/ FEBRUARY
2007

CONTENTS

ニュー・イヤー・コンサート2007.....1
レイフ・オヴェ・アンスネス ピアノ・リサイタル2
SELF PORTRAIT 会沢明美&茨城音楽文化振興会3
吉田秀和館長、文化勲章受章！4
最近の公演から5
ネタマ5
インフォメーション6



写真上;ニュー・イヤー・コンサート2006から

下・左;レイフ・オヴェ・アンスネス 右;天羽明恵

天羽明恵 写真:A.Muto

新しい年を飾る、花々の饗宴。

1 / 5 (金) ニュー・イヤー・コンサート2007 世界に、いくつもの花。

このところ毎年恒例のごあいさつとなっておりますが、「ニュー・イヤー・コンサート2007」、おかげさまで完売御礼となりました。水戸芸術館音楽部門の新年の幕開けを告げるこのコンサートを、このようにたくさんの方々が楽しみにしてくださっていることに、喜びと感謝の思いを深くしております。

さて、今年のニュー・イヤー・コンサートのサブ・タイトルは、「世界に、いくつもの花。」。昨年在「Stars play stars」のサブ・タイトルのもと「星」をテーマにしておりましたが、今年は「花」というわけです。プログラムは、皆様からいただいた「大吉リクエスト」をもとに、「花」をモチーフにした名曲の数々をご用意しております。内容は例によって当日まで内緒ですが、昨年の「天体の音楽 木星」につづき、作曲家・野平多美による「ニュー・イヤー・コンサート一期一会編曲版」で「あの名曲」が聴ける! ことを申し上げておきます。

さて、今年のコンサートを飾る、華麗なる花々をご紹介します。ヴァイオリンは、加藤知子、久保陽子、久保田 巧、小林美恵、田中直子、中村静香、沼田園子、堀 伝と、水戸室内管弦楽団(MCO)、ATMアンサンブルで活躍するおなじみの名手たち。今年はこの顔ぶれに、現在ソロに室内楽に大活躍中の若手であり、近年MCOのゲストとしてたびたび出演している島田真千子が加わります。ヴィオラはMCOメンバーの店村眞積と、MCO、ATMアンサンブルのゲストとして頻りに登場している名手、川本嘉子。チェロは堀 了介、

松波恵子、コントラバスは黒木岩寿、永島義男とMCOの面々。管楽器もMCOメンバーが登場、フルートの工藤重典、ホルンの水野信行、トランペットの杉木峯夫の豪華布陣。ピアノの野平一郎は3年連続の出演で、すっかりこのコンサートのおなじみとなりました。また、オルガンの椎名雄一郎はこのコンサート初登場ですが、すでにプロムナード・コンサートに何度も出演し、また2003年2月のATMアンサンブル演奏会第18回演奏会にもゲスト出演しているので、ご存知の方も多いでしょう。近年はバッハ・オルガン作品の全曲演奏会シリーズに取り組み、CD録音も積極的に行うなど、次代を担うオルガニストとして注目されています。そして、華麗なる歌声の大輪の花を咲かせてくれるのが、ソプラノの天羽明恵。日本人離れた超絶的なコロラトゥーラとして、ヨーロッパでも高い評価を受ける、いま最高に輝いているソプラノの一人です。水戸芸術館では、水戸室内管弦楽団第26回定期演奏会(1996年6月)にゲスト出演し、若杉 弘指揮のもと、リヒャルト・シュトラウス ナクソス島のアリアドネ のツェルピネッタ役を鮮やかに演じ、至難な大アリアをまさに超絶としか言いようのない技巧と表現力で歌いきって大喝采を浴びました。あれから10年、いっそうの成熟を加えた天羽明恵の歌声が、新年のコンサートホールに響きわたるのです。これを「乞うご期待」と言わずして、なんと言いましょうか! そして、こちらも毎度誰が来るかお楽しみみの司会は、NHKアナウンサーの山本志保さんです! なお当日の演

奏会は、2006年のニュー・イヤー・コンサート同様、NHK県域デジタル放送にて生中継されます。チケットを購入しそこなってしまった、という方、もしデジタル中継をご覧いただけるなら、ぜひどうぞ。

さて、「世界に、いくつもの花。」というサブ・タイトルについて。「花」については数年前、色とりどりの花にかけがえのない一人一人の存在を重ねた歌が流行していました。ひとりひとりが、代替の利かない個人であり、自分に誇りを持つこと...それはもちろん大事です。しかし、それと同じくらい、そしてもしかしたらそれ以上に、私たちは、自分の周りから遠い世界にいたるまで、他者の無数の命という名の「花」が咲いては枯れ、また新しく咲いてゆくという事実を、想像すべきなのかもしれません。歌で歌われている「花屋の店先」だけでなく、路地裏のアスファルトを突き破って咲き、見知らぬ異国の熱帯雨林で人知れず咲き、荒涼たる砂漠で力強く咲き、散ってゆく花たちがあるように、今もこの世界で、無数の人々が生を営み、終わっています。その中には、本人が望まないのに戦争などの暴力で命を散らしてしまう人々も、数限りなくいるでしょう。そんな、命の「花々」に思いを馳せる心こそが、この荒んだ社会をいささかなりと潤してゆく手だてとなるのでは、という思いを込めてみました。

さて、能書きはここまで。1月5日、華麗なる花々の饗宴に、どうぞご期待ください!

《矢澤》



レイフ・オヴェ・アンズネス

気鋭の若手 No.1 ピアニスト、アンズネス。水戸芸術館に初登場。 2 / 4(日)レイフ・オヴェ・アンズネス ピアノ・リサイタル

レイフ・オヴェ・アンズネス もし、この名前をご存じないのでしたら、ぜひ覚えておいて下さい。今、ヨーロッパがその音楽的動向に注目してやまない若手ナンバーワンのピアニストだからです。

そして、そのアンズネスが2月4日(日)に水戸芸術館コンサートホールATMでリサイタルを行います。絶対に聴き逃さないリサイタルとなりそうですが、このvivoでは、アンズネスを知るためのキーワードと彼の発言を散りばめながら、その音楽の本質に迫ってみたいと思います。

1. ノルウェー

作家イブセン、画家ムンク、そして作曲家グリーグを生んだ北欧の国ノルウェー。そう言えば、水戸室内管弦楽団のファゴット奏者ダグ・イェンセンもノルウェー出身。ヨーロッパの中核であるドイツ、イタリア、フランスから多大な影響を受けつつも、そこから一定の距離を置き、独自の文化を育ててきた国と言えるでしょう。(グリーグの音楽の魅力については、P.5「ネッタマ」をご覧ください。)

アンズネスは、1970年、地方都市であるカルメイで生まれました。音楽教師だった両親のもとでピアノを始め、8歳の時には「家でピアノの前に座っていたとき、それは僕にとっては完全な世界であるとたちまち悟った」と言います。すごいことですよ、8歳にして自分の肉体(おもに手)が他の楽器よりピアノに適していると感じ、ピアノ音楽の中に「これさえずっと弾いていけばいい」と感じる豊穡な世界を確信したのでから。

その後、地元の音楽学校からベルゲン音楽院に進学。87年、17歳のとき、首都オスロでリサイタル・デビュー。89年(19歳)アメリカとカナダにデビュー。92年(22歳)、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団と初共演。また、ロンドンの「プロムス」にも初登場…。いやー、とんとん拍子とはこのことかと思いますが、一つ意外な点が。コンクール受賞歴が見当たらないのです。ロンドンのコンクールに出場して2位に入ったことがあるものの、「ああいう人工的な環境に長時間閉じ込められるのは好きではありません」と、以降はあっさりコンクール出場を切り落としました。

何にも縛られず、自分が進みたい方向にすくすくと成長した感のあるアンズネスの青少年時代。「クラシック音楽の伝統がない国から来たことが、かえって良かったのではないのでしょうか。もし私がロシア

生まれのピアニストなら、おそらくロシア・ピアノの伝統に縛られて、こういう風にはなれなかったと思います。その点で、私は自分が歩んできた環境というものに感謝しています。

アンズネスが小さい頃から親しんできたグリーグの音楽、しかもヴァルダール地方の民謡から材を取ったノルウェー民謡による変奏曲形式のバラードの演奏に、彼の原風景をみることが出来るかも知れません。

2 バランス感覚

アンズネスの演奏を聴くと、エモーショナルな要素とロジカルな構築感とが高い次元で見事なバランスを取っていると感ずります。モーツァルト然り、シューベルト然り、ラフマニノフ然り…。いわば、「知情意」が緊密な関係を保っているのです。アンズネスは、必要以上に何かを強調したり、拡大したりはしません。音楽はつねに自然な流れを保ち、聴き手がその流れにぴったりと寄り添っていけるようになっているのです。

アンズネスはバランス感覚について、こう発言しています。「僕はいつもその間のバランスを達成したいと努めている。感情はいつだって重要だけれど、ある種のフィルターを通していく必要があって、僕にしてみれば、控えめに言うことも大げさな表現と同じくらい大切なのです。すべてはそういう感じで、僕はアニマリスティックなアプローチで鍵盤に臨むことは好まないし、大きな音や豊かな音は好きだけれど、ピアノをばんばん叩くようなこと、ピアノを傷つけるようなことは好きじゃない。そうすると、倍音や何かが生成されていくことが損なわれてしまうね。」

確かに! 控えめな表現とそこに込められた微細なニュアンスこそが、アンズネスのピアノの最大の美質だと言ってしまいたくもなります。

リサイタルでは、アンズネスが満を持して取り組んでいるベートーヴェンの最後のソナタ(第3番 八短調 作品111)が披露されます。この大作曲家の最晩年の思索が、フーガや変奏曲に深く刻み込まれた2楽章構成のこのソナタは、知情意の高次元でのバランスが演奏者に課せられる難曲です。アンズネスの解釈と演奏に期待がつのります。

3 コミュニケーション

アンズネスの活動歴を見ると、いわゆる「ソロ」や「リサイタル」活動にばかり専念している演奏家

には映りません。ノルウェー室内管弦楽団とは「室内楽を演奏している気分」でピアノ協奏曲を弾き振りし、イアン・ボストリッジ(テノール)やクリスチャン・テツラフ(ヴァイオリン)との共演では伴奏ピアノも弾きます。また、地元ノルウェーのリソール室内楽音楽祭では芸術監督を務め、ギドン・クレーメル、マキシム・ヴェンゲーロフ(以上ヴァイオリン)、バーバラ・ヘンドリックス(ソプラノ)、エマニュエル・アックス(ピアノ)、ハインリヒ・シフ(チェロ)らを招いてもいます。アンズネスは、様々な音楽家とのコミュニケーションを通じて、自らを高めているようです。「私は非常にすぐれた指揮者やオーケストラと共演してきましたが、そういう人々から学ぶことが多いです。毎回の演奏が勉強になり、会う人すべてが私の先生になり得るのです。」

さらに、アンズネスは音楽を通じたコミュニケーションの力を信じています。「作品がいつも重要です。それから、誰かとコミュニケーションしたいということ。そのどちらも大切で、楽譜に専心するだけでなく、聴衆だって重要だと僕は思います。オーディエンスは多くのインスピレーションをくれる。孤立した音楽家には必要ないかも知れないけれど、生きた音楽家という意味での成長発展には大切な存在です。グレン・グールドみたいにレコーディングだけをする方法だってある。けれども、僕にとって大切に、信じているのは、音楽を通じて人々がコミュニケーションする状況です。だから僕はコンサート環境というものを信じていますよ。」

リサイタルの最後を締めくくる曲は、ムソルグスキーの組曲「展覧会の絵」。ムソルグスキーが、親友の画家ハルトマンの絵から靈感を受けて作曲した全10曲からなるユニークな組曲です。アンズネスはその知的好奇心を持って1曲1曲にコミュニケーションしていくでしょう。その演奏は、作品を生まれたばかりの生々しさと蘇らせ、私たち聴衆に訴えかけてくるに違いありません。聴衆はその演奏にどのような「展覧会」を見、感想を返すのでしょうか?

生の演奏会でしか味わえないライブな音楽体験が、アンズネスのリサイタルでは満喫できそうです。どうぞお聴きのがしなく。

《関根》

アンズネスの発言は、「レコード芸術」2006年2月号及び「音楽の友」2006年2月号、3月号から引用させていただきました。



左;会沢明美
右;茨城音楽文化振興会(演奏風景)

SELF

PORTRAIT

水戸市出身のソプラノ歌手・会沢明美が誘う、戦後の新しい日本歌曲の数々

1 / 13(土)
会沢明美
ソプラノ・リサイタル

日本歌曲 戦後の作曲家4人を選んで 中田喜直・團伊玖磨、石桁真礼生、三善晃

水戸の皆様お久しぶりです。前回、1998年のデュオ・リサイタルから9年目になります。その間何度も企画を提出いたしましたが、なかなか実現ならずそれでも諦めず2000年からは、東京室内歌劇場のメンバーとして都内に活動の場所を移して研鑽を積んで参りました。

今回はオール日本歌曲プログラムでお届けいたします。日本人のあり方や自国の文化を見直そうという動きが高まっている中、外国の歌曲ばかりではなく「母語である日本語を大切に日本歌

曲を歌いたい!」という思いを強くしています。日本歌曲を学んでいくにつれ、日本語を歌にのせて語ることの難しさにも向き合いましたが、何より詩の心が直接伝わる心地よさ、歌曲表現の奥深さに触れ夢中になっています。数多くの日本歌曲との出会いとともに、ドイツリートやイタリア歌曲に負けない自国の日本歌曲を歌い続けたいという気持ちが固まりました。日本歌曲の演奏会ということからたちの花 この道 といった名歌曲が演奏されることが多く見られます。ここでは名歌曲や愛唱歌ではなく、戦後から現在に至る時代の中で活躍した作曲家の中から、中田喜直・團伊玖磨・石桁真礼生・三善晃の4人を選んで、歌曲集を中心に紹介いたします。

中田喜直作曲、三好達治作詞 桐の花 すずしきうなじ またあるときは たんぼぼ から始め、木兎 ではゲストの堀野浩史氏(バス)による深くまた明瞭なことばさばきで男性の心情をお伝えします。團伊玖磨作曲、萩原朔太郎作詞「わがうた」より ひぐらし 紫陽花 という対照的な印象の2曲をお楽しみください。大木実作詞

「抒情歌」の第2曲 路地の子 では、近所の子供たちと日の暮れるまで遊んだ昭和の時代を彷彿とさせます。(南町三丁目に生まれ育った私は芸術館の周りも駆け回っておりました。)堀野氏は石桁真礼生の愛弟子でした。作曲家自身の指導を受けた 鴉 を楽しみにしてくださるお客様もおいでかと存じます。私は八木重吉作詞 秋の瞳 を歌わせていただきます。最後に三善晃作曲、山村暮鳥作詞「聖三稜玻璃」を演奏いたします。暮鳥は、晩年を大洗町で過ごしました。海と空の青、光溢れる空へと向かう祈りと空気感が表現できたら成功です。ピアノは前回と同じく塚田佳男氏にお願い致しました。地元水戸の皆様の前で最高の共演者と共に演奏できますこと大変有り難く思っております。今までのたくさんの出会いと当日のお客様との出会いに感謝して歌わせていただきたいと思ひます。一人でも多くの方々にご来場いただき、日本歌曲を聴いていただけましたら幸いに存じます。

会沢明美

茨城の気鋭の演奏家たちが活躍する「茨城音楽文化振興会」、華やかな早春のガラ・コンサート!室内楽、ピアノ・ソロ、歌曲等の多彩な内容。

1 / 21(日)
茨城音楽文化振興会
第5回定期演奏会
アーリー・スプリング
コンサート

Ibaraki Music Academy 茨城音楽文化振興会第5回定期演奏会 アーリー・スプリングコンサートのご案内

本会は、茨城県出身・在住の優れた音楽家の活動支援を目的に設立いたしました。多くの方にクラシック音楽の良さを味わってもらうために、定期演奏会をはじめ、幼稚園、小中学校や地域・職場に出向き出張演奏を実施しているのが本会の特長です。第5回目の定期演奏会は初の水戸芸術館コンサートホールでの演奏となりました。すばらしい会場で演奏家たちの研究の成果をご披露

することとなりました。会員一同、音楽を通し皆様豊かな心づくりや人と人のすばらしい関係づくりに役に立てただけならと考案内申し上げる次第です。よろしく願いいたします。

会長 柴沼 仁

出演者から皆様へ

茨城音楽文化振興会の定期演奏会も今回5年目の節目を迎えることになりました。茨城県出身の演奏家が集まり、毎年様々な楽器の編成による演奏会づくりを展開してきました。

今回も、ピアノ、声楽、管楽器の各々の特色を生かしながら、ソロやアンサンブルをおりませ色彩豊かな演奏会となるよう試みました。

もし仮に同じ楽器を演奏したとしても、一人一人声が違うように放つ音色も違います。私達8人の演奏家の音魂がどのように表現されどのように会場に響きわたるのか、最初は不安もありましたが今はとてもわくわくしております。

今回のステージは言葉も文化も異なる国々から生まれた作曲家の作品を、各楽器が持つ個性的、魅力的な部分を引き出して演奏していきます。異国情緒あふれる作品を私達と共に楽しんでいただ

けたらと思っております。

そしてとても単純なことなのかもしれませんが、例え話す言葉が違うとしても、音楽は心を惹きつける共通の言葉として生きていていると思ひます。作曲家が残した作品を心から好きになり、作品に込められた想いを私達が音にのせて、ステージから風のようにお届けしていきたいと思っております。世界一周とまではいきませんが、今回巡る国々の独特な風に乗しながら、ぜひ私達と一緒に楽しみくださいませ。

【お詫び】

チラシでご案内しました曲目のうち、ラフマニノフ:前奏曲 ホ短調Op.32-4がト短調Op.23-5に変更となりました。ここにお詫びと訂正を申し上げます。

代表 栗田美奈子(SAX)

編集部註:今回の出演者(敬称略)は、片岡麻衣、瀧家尚美、田名部真理恵(以上ピアノ)、市毛里香(フルート)、倉持香織(ファゴット)、川井里香(ピアノ)、栗田美奈子(サクソフォン)、川澄芳英(ソプラノ)の8名です。

吉田秀和館長が、文化勲章を受章。

吉田秀和水戸芸術館館長が、2006年度の文化勲章受章者に選ばれました。
11月3日、皇居において親授式が行われ、勲章を授与されました。



吉田館長は、1913年東京都日本橋生まれ。東京帝国大学仏文科卒業。

1946年、「音楽芸術」連載の「モーツァルト」で評論活動を開始。広い視野から音楽を美しい文章で論ずる独自の評論活動を展開、新生面を開き、日本の音楽評論の先導的役割を果たして来られました。

1948年、指揮者の斎藤秀雄氏らと後の桐朋学園大学の母体となる「子供のための音楽教室」を創設。1957年には、作曲家の柴田南雄氏らと「二十世紀音楽研究所」を設立するなど、音楽家の育成や現代音楽の普及にも尽力されました。

1975年 『吉田秀和全集』(全10巻、白水社)で「第2回大仏次郎賞」

1982年 「紫綬褒章」

1988年 「勲三等瑞宝章」、「第39回NHK放送文化賞」

1990年 「朝日賞」

1991年 芸術評論を対象とした「吉田秀和賞」が創設される。

1992年 『マネの肖像』で「第44回読売文学賞」

1996年 「文化功労者」として顕彰される。

2004年 『吉田秀和全集』(全24巻)が完結。

「水戸市文化栄誉賞」

1988年12月、水戸芸術館館長に就任。音楽・演劇・美術の3部門が活動を展開する複合文化施設として、自主企画を充実させ、日本を代表する文化施設の一つに育て上げました。特に、吉田館長の理念にもとづき、小澤征爾氏をはじめ、世界で活躍する日本人演

奏家を中心に創設された水戸室内管弦楽団は、今や世界的に認められる室内管弦楽団にまで成長し、日本の音楽文化を代表する室内管弦楽団として、市民の皆さんとともに、世界に向かってその活動を発信し続けています。吉田館長の文化勲章受章を心からお祝い申し上げます。

12月9日(土)に水戸芸術館会議場で、吉田館長の文化勲章受章を祝う会が行われました。会場には小澤征爾音楽顧問をはじめとするMCOメンバーなど約150人の関係者がつめかけ、加藤浩一水戸市長、森 英恵水戸市芸術振興財団理事長、小澤音楽顧問らが、あたたかい祝辞を送りました。吉田館長も、受章時のエピソードや芸術館の歩みなどユーモアあふれるごあいさつをされ、満場から大きな拍手を受けていました。



12/9(土) 吉田館長文化勲章受章を祝う会 左から、吉田秀和館長、加藤浩一水戸市長、森 英恵水戸市芸術振興財団理事長、小澤征爾水戸室内管弦楽団音楽顧問のあいさつ

さて、吉田館長の著作をあらためて熟読されたい方のためへ!この機会に、吉田館長のこれまでの著作を集成した、『吉田秀和全集』(白水社)はいかがでしょうか。完結した全24巻の内容は以下の通りです(コメントは白水社のウェブサイトから引用させていただきます)

第1巻 モーツァルト・ベートーヴェン

作曲家論1。モーツァルト、ベートーヴェンに関する諸論と両作曲家の演奏論を収める。

篠田一士解説 / 税込5250円

第2巻 主題と変奏

作曲家論2。ドイツ・ロマンティークを中心とした作曲家論を収める。 遠山一行解説 / 税込3780円

第3巻 二十世紀の音楽

作曲家論3。現代作曲家論を軸に、現代音楽についての考察を収める。 船山隆解説 / 税込4200円

第4巻 現代の演奏

演奏論1。演奏一般についての考察をほとんど収める。 高橋悠治解説 / 税込3885円

第5巻 指揮者について

演奏論2。指揮者論の頂点ともいべき『世界の指揮者』をはじめ、オペラ論、オーケストラ評を収録する。

川村二郎解説 / 税込3990円

第6巻 ピアニストについて

演奏論3。ピアニスト論のすべてと、レコード評への新しい視点をひらいた『一枚のレコード』を収める。

柴田南雄解説 / 税込3990円

第7巻 名曲三〇〇選

作品論1。作品解説の形をとった音楽通史『音楽家の世界』『わたしの音楽室』のほかに、作品論の小品を収める。 高橋英郎解説 / 税込4200円

第8巻 音楽と旅

西欧を旅した折のエッセイを収録する。

畑中良輔解説 / 税込3990円

第9巻 音楽展望

新聞に発表された音楽展望、音楽会評を収録するほか、井口基成、安川加壽子などの日本人演奏家論を併せ収

める。 林光解説 / 税込4515円

第10巻 エッセー

音楽評論以外の、文明批評、美術批評、文芸批評を集成する。 菅野昭正解説 / 税込4515円

第11巻 私の好きな曲

作品論2。個々の音楽作品が音楽的にどのような出来上がり方をしているかを考察する。

三宅幸夫解説 / 税込4095円

第12巻 カイエ・クリティク1

長年書きつづけられてきた『批評草紙』『批評家の手帳』のなかから、「音楽」を対象としたものを集める。

細川俊夫解説 / 税込4410円

第13巻 音楽家のこと

具体的な分析に基づいた作曲家論と演奏そのものに則して演奏家を捉えた演奏家論を併せ収める。

土田英三郎解説 / 税込4410円

第14巻 ディスクの楽しみ

レコード、CDからビデオ・ディスクまで、鑑賞のポイントをわかりやすく説く。 伊東信宏解説 / 税込3990円

第15巻 カイエ・クリティク2

著者の日常と諸芸術との触れ合いを綴った珠玉のエッセイを収録したほか、自伝抄を併録。

高橋英夫解説 / 税込3990円

第16巻 芸術随想

美術論を中心に芸術論を集めた。鋭い審美の耳と目をもって西欧芸術の深奥に迫る。

杉本秀太郎解説 / 税込3990円

第17巻 調和の幻想

シンメトリー(対称)とアシンメトリー(対称を避ける)というキーワードを基調に、日本とヨーロッパの芸術の接触から生じた影響関係の跡を明らかにする。

酒井忠康解説 / 税込4515円

第18巻 セザンヌ

近代的パースペクティブの美学を解消しても、なお「精神的な品位」を放射してやまないセザンヌ晩年の作品群の育成のあとを、特に画面構成の面から克明に追った美術論。 岡田温司解説 / 税込4515円

第19巻 音楽の時間1

聴くべきポイントを滋味あふれる文章で綴ったディスク評に加えて、音楽を中心としながら、絵画や建築や芝居、さらには社会や政治にかかわる話題をつづった「音楽展望」を併録。 加藤周一解説 / 税込4725円

第20巻 音楽の時間2

「今月の一枚」「音楽展望」「音楽会批評」の三部からなる構成は19巻と変わらない。年代順の配列が19巻に引きつづいて第一部が1990年まで、第二・三部が1987年までとなっている。 渡辺裕解説 / 税込4725円

第21巻 音楽の時間3

ほぼ1993年までの、レコード評、音楽展望、音楽会批評を各紙・誌掲載順に収録。音楽は「文化」という大きなシステムの一部であるという著者独自の視点からなされた音楽時評の集成。 三浦雅士解説 / 税込5040円

第22巻 音楽の時間4

「音楽の時間」の4巻目。本巻で17巻より継続した第3期新刊全6冊は完結。1997年までの著作を22巻で集成。 長木誠司解説 / 税込5040円

第23巻 音楽の時間5

19巻から始まった「音楽の時間」の完結巻。「今月の一枚」は『レコード芸術』誌連載の終結号まで、『朝日新聞』に毎月寄稿の「音楽展望」は2003年の11月までのエッセイを収録。 岡田暁生解説 / 税込4830円

第24巻 ディスク再説

「音楽をさく」という行為を、「耳」だけに限らず、「頭」と「心」に直結する問題から論じた究極のディスク評33篇に加えて、23巻までに未収録の小品十数篇で構成。他に丸山真男との対談、水戸芸術館について2篇、亡妻バルバラに捧げる追悼記など。全集全24巻ついに完結。 税込4830円

なお、吉田館長は、現在雑誌『レコード芸術』(音楽之友社)で『之を楽しむ者に如かず』、『すばる』(集英社)で、巻頭エッセイ『永遠の故郷』を連載中。朝日新聞『音楽展望』の連載も再開しています。

最近の公演から NOVEMBER



1



2



3



4

1～4. 水戸室内管弦楽団第66回定期演奏会

水戸室内管弦楽団第66回定期演奏会
(11月18日、19日)
水戸室内管弦楽団鎌倉演奏会(11月20日)
水戸室内管弦楽団福岡演奏会(11月21日)

2年半ぶりに水戸室内管弦楽団(MCO)の指揮台に再登場した準・メルクル指揮による第66回定期演奏会。準・メルクルが鎌倉演奏会でのプレトークで語ったのだが、MCOの室内管弦楽団としての3つの機能を再確認するようなプログラムが組まれた。1曲目はR.シュトラウスの組曲「町人貴族」。安芸晶子(ヴァイオリン)、原田禎夫(チェロ)、工藤重典(フルート)らメンバーがそれぞれに名人芸を披露し、パロック時代のコンチェルト・グロッソを髣髴とさせる「室内楽」的雰囲気がホールを満たした。2曲目はブリテンの「セレナード」。イアン・ボストリッジ(テノール)とラデク・パボラーク(ホルン)が誘うこの上なく豊かな詩的世界については言わずもがな。MCOはここでは「伴奏者」としての役割を、メルクルとともに適切に果たしていた。3曲目はベートーヴェンの「交響曲第8番」。正攻法で堂々と作品をとらえたメルクルの指揮に導かれ、MCOは極めて精度の高い「シンフォニー・オーケストラ」に変身していた。2度目の共演にしてここまでMCOの特性を引き出すことに成功した準・メルクルとは、今後も良い関係を保っていけることと思う。

水戸での定期演奏会の後、鎌倉芸術館、アクロス福岡で館外演奏会を行い、どちらも大成功に終わった。《閑根》アンケートから「いたるところにからくりが隠されていて、しかけ絵本をひろげたとともに楽しいコンサートでした。」(水戸市:H.N.さん)「町人貴族

...シュトラウスを改めて認識させられました。表現の多彩さにびっくりしました。ブリテン...はじめて聴いた曲ですが、また音楽の世界を広げさせていただきました。ベートーヴェン...MCOでは久しぶりに聴いたベートーヴェン。バランスが見事でした。MCOは水戸、茨城、日本を勇気づけ、元気を与えるオケです。いつまでも輝いてほしいです。(鉾田市:A.O.さん)ブリテンの曲は初めて聴いたが、まったくあきさせず、曲に引き込まれてしまった。ロマン派的な夜の雰囲気が良く、神秘的だった。8番との対比も魅力的だった。(東京都:T.S.さん)

とても素晴らしかったですが、何と言ってもブリテンの「セレナード」におけるボストリッジの内省的な歌唱とパボラークの美しいppの持続音との対比が印象的でした。(川崎市:T.F.さん)いつも曲目の構成が多彩で、メルクルさんのいろいろな面を見せてもらえます。(東京都:Y.T.さん)メルクルのシュトラウスは、今世界で最高でしょう。ベートーヴェンは近頃古楽スタイルでなくては駄目みたいな風潮があるが、要はスタイルがどうであれ、良いか悪いかだと思う。(H.I.さん)本当に素晴らしい演奏でした。特にブリテンの「セレナード」は調和が見事としか言いようがありません。弦楽、テノール、そしてホルン。まるで大自然の中にいるような錯覚に陥りました。パボラークのppは言葉がありませんね。もう完全に脱帽するしかない!!ベト8は正直度肝を抜かれました。流れがまったくとぎれないので本当にびっくりです。また、要所要所でティンパニの絶妙な合いの手が入るので、最後まで飽きませんでした。(日立市:T.N.さん)



*nettama=ネットワークする猫、タマ。
芸術館のコンサートをサカナにいる
などところへnettamaします。

グリーグ賛

いやあ、寒いですなあ。猫族にはこたえる季節、特に僕のような自由猫は炬燵でまるくなるわけにもいかず、厳しい毎日です。こんなときは、寒い国の音楽を聴くに限るね。ロシアとか、北欧とか。え、「南国の音楽」の間違いじゃないかって。いやいや、こんなときにボサ・ノヴァとかアフロ・ポップとか聴いたら逆に寒い今を自覚させられるだけで、逆効果です(少なくとも僕は)。北国の人たちは、寒い冬をどう乗り切るかのプロだもの。彼らの音楽にこそ、寒さを乗り切る智恵が託されているのではないかな?

というわけでルウェーの作曲家、グリーグの音楽はいかがでしょう。2月4日、アンスネスのリサイタル(2ページ目のSさんの記事参照)で彼の曲が演奏されるけど、いいねえ。僕は「ピアノ協奏曲 イ短調」が好き。子どもの頃それこそLPがすり切れるほど聴いて、頭から最後まで歌

えます。誰も僕の鼻歌で全曲聞きたくないだろうが、シューマンの協奏曲の垂流だって?うーん、下敷きにしたのは事実かもね。でも、第1楽章の第2主題なんて、「ああ北欧だ」って感じじゃない?第2楽章の静けさは、シューマンのロマンティズムとはまた違う、ひろびろとした北国の大地を吹き抜ける風を感じさせる。それに第3楽章の民族舞曲!すてきな曲ですよ。デルウィンガーという人がこの曲の「初稿」というのを録音しているけど(いま普通に演奏されているのは改訂稿)オーケストレーションがより野趣に富んでいて面白い(輸入盤、BIS)。

グリーグは、ペール・ギユントが有名だけど、それ以外にいい曲がいっぱいある。水戸室内管弦楽団も演奏した「ホルベアの時代から」もいい。冒頭を聴くと、いつも僕は軽やかなスケートの情景を思い浮かべる。この曲、ピアノ・ソロ版がオリジナルで、いっそうクリスタルな響きが冬っぽい。田部京子さんの新録音がある(デノン)。ピ

アノのための「抒情小曲集」も、前述田部さんの新録音や、ギリリスやリヒテルの名盤で、冬の夜に1曲1曲、静かにウィスキーをかたむけながら聴いたらどんなにいいだろう(僕は飲めないからこう書くのだが)。それに、室内楽も、弦楽四重奏曲、チェロ・ソナタ、ヴァイオリン・ソナタ第3番など、佳品ぞろいだ。どれも時代を動かした重要作ではないかもしれないけれど、そこに流れる澄んだ空気がこちよ。歌曲も、オッターが歌っていたし、もっと聴いてみたいと思っている。

グリーグを聴いていると、冬の朝に散歩しているような気分になる。はじめは寒いけれど、徐々に身体が温まり、すがすがしい大気と晴朗な冬の空、足元の霜柱の感触や木々を覆う雪を愛でる気持ちの余裕が生まれてくる。豪雪に苦しむ北国の人々には、冗談じゃない!!と怒られそうだけれど、すみません、これがひ弱な温带猫の冬の過ごし方なんです。ともあれ、2月4日にはコンサートホールATMでアンスネスの弾くグリーグを聴こう。あ、アンスネス、同じ北国ムソルグスキーの「展覧会の絵」も弾くじゃないか!

information

チケットに関するお問い合わせ

...水戸芸術館チケット予約センター / 029-231-8000
営業時間 / 9:30 ~ 18:00(月曜休館)

公演内容や企画に関するお問い合わせ

...水戸芸術館音楽部門 / 029-227-8118

【ATM便り】毎月1回茨城新聞に不定期登場。

NHK-FM水戸「芸術よもやま話」金曜日18:15頃~15分ほど。水戸周辺83.2MHz、日立周辺84.2MHz。

茨城放送「田辺昭雄のちよいマジらじお」内「田辺昭雄のなんだっけおじさん~ちよい耳クラシック」毎週金曜日・朝7:20頃から約5分間 水戸周辺1197KHz、土浦周辺1458KHz

チケット・インフォメーション 1月5日(金)発売分

ジグモンド・サットマリー オルガン・リサイタル 2/26(月)18:30開演

料金(全席指定):A席¥3,500 B席¥2,500

ペア券(A席限定50組)¥6,000

[BACHのための4人]その1 Bravery(勇氣)

高橋悠治 ピアノ・リサイタル 4/21(土)18:30開演

料金(全席指定):¥3,500

[BACHのための4人]その2 Animation(活気)

西山まりえ チェンパロ・リサイタル 7/14(土)18:30開演

料金(全席指定)¥2,500

高橋悠治と西山まりえの2公演のセット券:¥5,000 水戸芸術館のみの取り扱いです。

[BACHのための4人]関連企画

映画『アンナ・マグダレーナ・バッハの日記』

会場:水戸芸術館ACM劇場 4/8(日)15:00~

料金(全席自由):¥1,000(高橋悠治もしくは西山まりえのチケットと一緒に購入すれば¥200引き)

1月6日(土)発売分

合唱セミナー2007 講師:林光 3/18(日)10:00開始

参加チケット代(楽譜代込み):一般¥2,000 高校生¥1,500

中学生以下¥1,300

高山三智子 ピアノ・リサイタル 4/28(土)18:30開演

料金(全席自由):¥3,500

これからの演奏会・残席情報

○...残席あり(20席以上) ...残席わずか(20席未満) x...残席なし 中央...中央ブロック 左右...左右ブロックおよびステージ裏 補助...補助席

ニュー・イヤー・コンサート2007 1/5(金).....売完

会沢明美 ソプラノ・リサイタル 1/13(土).....自由席

茨城音楽文化振興会 第5回定期演奏会 1/21(日).....自由席

レイフ・オヴェ・アンズネス ピアノ・リサイタル

2/4(日).....中央、左右・裏

ヴェッセリーナ・カサロヴァ メゾ・ソプラノ・リサイタル

2/14(水).....中央x、左右

ちょっとお昼にクラシック6 2/16(金).....自由席

中村真由美・中村佳代 ピアノ・デュオ リサイタル

3/17(土).....自由席

後藤晴美 フルート・リサイタル 3/24(土).....自由席

12/13(水)現在の状況です。

公演当日に残券がある場合、開演1時間前より水戸芸術館チケットカウンターでお得な学生券を発売いたします。ご購入の際には学生証(記名章)をお持ちください。公開セミナーなど、学生券のない公演もございますので、予めお問い合わせ下さい。

固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

水戸芸術館の主な1月のスケジュール

コンサートホールATM

ニュー・イヤー・コンサート 2007 世界に、いくつもの花。

1/5(金)18:00開演

料金(全席指定):S席¥5,000 A席¥4,000 B席¥3,000

会沢明美 ソプラノ・リサイタル 1/13(土)14:00開演

料金(全席自由):一般¥3,500 学生(大学生以下)¥1,000

アーリー・スプリングコンサート 茨城音楽文化振興会第5回定期演奏会

1/21(日)14:00開演

料金(全席自由):一般¥2,500 学生(大学生以下)¥1,000

エントランスホール

エントランスで踊ってみる23 『Rainbow4~あれから一年~』

1/14(日)13:00/15:00/17:00 入場無料

パイプオルガン ブロムナード・コンサート

1/20(土)13:30/15:00 1/27(土)13:30/15:00

1/28(日)12:00/13:00

入場無料 演奏は各回20分程度です。

ACM劇場

ACM劇場プロデュース公演 現代劇作家の新作 3 『麗しのハリマオ』

1/19(金)19:00開演、1/20(土)19:00開演、1/21(日)14:00開演

1/26(金)19:00開演、1/27(土)19:00開演、1/28(日)14:00開演

料金(全席指定):一般¥3,000 団体(10名以上)¥2,700 学生¥2,000

現代美術センター

佐藤卓展「日常のデザイン」

10/21(土)~1/14(日)9:30~18:00(入場は17:30まで)

休館日:月曜日ただし1/8(月・祝)は開館、翌1/9(火)は開館。

年末年始12/27(水)~1/3(水)

入場料:一般¥800 前売・団体(20名以上)¥600

中学生以下・65歳以上・各種障害者手帳をお持ちの方と付添いの方1名は無料

茨城の主な1月の演奏会 有料公演のみ

佐川文庫 TEL/029(309)5020

~若手ピアニストシリーズ~前山仁美 ピアノ・リサイタル

1/20(土)18:00開演

水戸市民会館 TEL/029(224)7521

水戸市民吹奏楽団 第29回定期演奏会 1/14(日)14:00開演

日立シビックセンター TEL/0294(24)7711

第12回ニューイヤーオペラコンサート~オペラクライマックス!~

1/7(日)14:00開演

常陸太田市民交流センター・パルティホール TEL/0294(73)1234

Norie&Shigeko ニューイヤーコンサート

[鈴木慶江(ソプラノ)鈴木重子(ヴォーカリスト)] 1/20(土)18:00開演

ギター文化館 TEL/0299(46)2457

東京ギターカルテット コンサート 1/14(日)15:00開演

ノバホール TEL/029(852)5881

コンチェルト・コペンハーゲン演奏会 1/20(土)15:00開演

アンサンブル音楽三昧コンサート 1/31(水)19:00開演

鹿嶋勤労文化会館 TEL/0299(83)5911

サンクトペテルブルク室内合奏団

ウィナー・ワルツとニューイヤー名曲セレクション 1/12(金)18:30開演

【お詫びと訂正】

1月13日開催「会沢明美ソプラノ・リサイタル」のチラシで、曲目表記に誤りがありました。正しくは以下の通りです。お詫びして訂正いたします。

石桁真礼生「鳥」(誤)「鴉」(正)

三善晃「聖山稜玻璃」(誤)「聖三稜玻璃」(正)

水戸芸術館音楽紙[ヴィーヴォ] 2007年1月発行 第122号

編集・発行/水戸芸術館音楽部門 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8

TEL:029-227-8118 FAX:029-227-8130

e-mail [ankmr@arttowermito.or.jp] URL [http://www.arttowermito.or.jp]

編集/水戸芸術館音楽部門(五十音順):佐川真美 関根哲也 中崎美智代 中村 晃

矢澤孝樹(編集長)

DTP / office west

印刷所 / 株式会社あけぼの印刷社

次号は...

世界のディーヴァが! 至高のオルガニストが! そしてお昼に!